

緑の募金へご協力ありがとうございました

総額34万円

4月1日から5月31日までの期間で行われた「緑の募金」は、村内の各家庭、事業所、学校などからご協力をいただき、平成16年度の村全体の募金総額は34万円となりました。

5月28日には村内の小・中・高校の生徒たちが役場に訪れ、みんなの気持ちがたくさんこもった募金を村長に手渡ししました。



▲集めた募金を手渡す赤石澤るいさん（飯樋小）

このほか、村内7事業所からも多くの募金が寄せられました。

今回集まった募金は、県の緑化推進委員会に集められ後、「緑の募金交付金」として各学校などに交付され、様々な緑化運動のために使われます。みなさんのご協力ありがとうございました。

協力いただいた事業所（順不同）

(有)信和建設
(有)渡建工業
濱田建設工業(株)
カクダイ建設(株)
(株)英工務店
飯館村森林組合
相馬広域消防飯館分署



未来からの留学生のために

飯館村では4、5年前から、2、3歳の子どもさんに絵本をプレゼントしています。お父さん、お母さんに読んでもらうことによって、親子の絆を深め、読書好きな人に育って欲しいからです。

「百以上のおとぎ話や有益な話を知らなければ、親の資格はない」と言い切った教育者がいますが、私たち親は子どもに語って聞かせる話をいくつ持っているでしょうか。

「三つ子の魂、百まで」と言われるように、近頃のいろんな事件を見るにつけ、家庭教育が子どもの一生を左右するのだということが、はつきりしてきました。

親から子へ心に響く話を語りながら、物事の善悪、社会生活のルール、思いやりの大切さなど、しっかりと教えてい

きたいものです。

私は近頃、住みよい社会づくりに奉仕する法人がだしている新聞広告がとても気に入っています。一つは「お話しは、おっぱい」というものです。子どもへの栄養は、おっぱいだけではないですよ、お話という素晴らしいものもあるんですよというものです。今の子どもはお話という栄養は足りているでしょうか。絵本などを通してでも、もっともつとこのおっぱいを与えたいものです。

もう一つの広告は「抱きしめる、という会話」というものです。子どもの頃に抱きしめられたという記憶は、優しさや思いやりの大切さを教えてくれたり、一人ぼっちじゃないんだって思わせてくれたり、そこから先は行っちゃいけないよって止めてくれたり、死んじやないくらい切ない時に支えてくれたりするものなのだ、と訴えているのです。

皆さん、飯館村の未来のために子どもたちをもっと抱きしめ、そしてお話し

平成16年6月28日

飯館村長 菅野 典雄